

相産だより

誠実 創造 努力



第67回卒業証書授与式

2月25日(水)、第67回卒業証書授与式が執り行われました。体育館には、11名の来賓のほか、保護者が臨席し、教員、在校生が卒業生の入場を待ちます。スクリーンには3年間の思い出のビデオがBGMに乗り、放映されました。9時55分、卒業生182名が厳粛に入場し、最後の生徒が席に着き、10時から開式となりました。



卒業証書授与では、担任の呼名に、生徒一人一人が元気に「はい」と応えて起立。高らかに響く声が聴く者すべての心の中にも響きわたり、同時にそれぞれの笑顔が懐かしくよみがえります。



学校長式辞では、卒業してから心得るべき大切なことを二つ挙げました。一つは謙虚な心を持つこと、言い換えれば、「聞く耳を持つ」ことが、円滑な人間関係と信頼を築く力になります。二つ目は自ら学ぶことを忘れないということです。校長先生自身が、高校時代に経験した大きな試練を例に挙げました。大きな壁にぶつかっても、とまど

いながら、試行錯誤しながら、その時前向きに選択したことが、新たな道を導いてくれたのです。まさに「ピンチ」を「チャンス」に変え運命を切り開いていったのです。

PTA会長の来賓祝辞では、生徒を見守り、ここまで支えてくれた教職員への感謝と、卒業生には、今後不安な気持ちや悩むことがあっても、3年間の努力の証である卒業証書を見てほしい、母校での学び、部活動で頑張ったこと、仲間と過ごした日々の土台がみんなを支えてくれる。先生方、保護者、私たち母校の卒業生も、応援しているので頑張してほしいと述べられました。(No.14-②に続く)



相産だより

誠実 創造 努力



第67回卒業証書授与式 (No.14-①の続き)



在校生代表の送辞で、2年生の有政さくらさんは、先輩が過ごした3年間で、自分の思い出とともに振り返りながら、その苦勞をねぎらいました。特に華やかな文化祭の裏で、それを支える人々の努力があるということ、また成功を目指して多くの先輩が苦勞し、運営に努めたことを自分がその立場になって初めて知り、身をもって先輩の偉大さを実感できた。先輩への尊敬と感謝の念を述べ、行き詰まること

があっても、今日の喜びを思い出してほしいと、エールを送りました。

続いて、卒業生代表、庭田美愛さんの答辞では、多くの学びを積み重ね、歩んできた3年間の集大成として迎えた卒業の日に、共に支えあい、励ましあった仲間への感謝を述べました。後輩たちには、悩むことがあっても、一人で抱え込まず、友人、先生、周りの人を頼り、今しかできない経験を大切にしてほしい、さらに自分たちに温かい言葉をかけ、共に歩んでくれた先生方と、いつもそばで見守り、支えてくれた家族に感謝を告げ、今まで受けた恩を、今後精一杯返していく決意を述べました。



その後、3年生川崎麻由さんのピアノ伴奏に合わせ、卒業生は式歌「3月9日」(レミオロメン)を歌いました。「上手くはいかぬこともあるけれど 天を仰げば それさえ小さくて」という歌詞があります。自分の人生は苦勞や失敗ばかり、と落ち込むことも多いですが、空を見上げると、この広い地球の中では、自分の悩みなどちっぽけなものだと感じさせられます。すると困難に立ち向かう勇気が湧いてきます。

最後に「蛍の光」「校歌」を元気よく斉唱し、一連の儀式を終えました。卒業生の前方で見守る、教えを受けた先生方に、「ありがとうございました」と感謝と別れを告げます。後ろにはいつも盾となってくれた保護者が控えています。「お父さん、お母さん、ありがとう」卒業生たちの声が、みんなの心にも響きわたりました。そぼ降る雨と、見送る人たちの涙と一緒に、未来に向かう若者たちの門出を祝いました。

